

WORD JUNGLE STEP.2

今回は“WORD JUNGLE STEP.2“について話をしていきます。

STEP.1の時にもお話ししましたが、WORD JUNGLEは、大きく分けると3つのSTEPからできています。

STEP.1 問いをつくる

STEP.2 混沌をつくる

STEP.3 振り返る

このWORD JUNGLEでは、情報提供者の話や本やDVDなどからキーワードを拾い、それらをポストイットに書き出すインプットからのアウトプットを経て、ポストイットを切り口としてダイアログし、最終的に参加者それぞれがダイアログから気づきを切り取る、そういった流れの場を90～120分かけてつくり出します。

今回はSTEP.2の混沌をつくるのですが、ここではどれだけ混沌を起こせるかがポイントになります。STEP.1を経て、その場に居るすべての人が複数の”問い“を持っている状態なので、それを信頼してしっかりと思考や想いを発散して、STEP.3につなげてください。

まずは、本やDVD、もしくは誰かのスピーチなどからのポストイットへのキーワードの書き出しを行います。ここでは、STEP.1でつくった質問の答えを探しますが、本であれば一言一句読むのではなく、目に留まった言葉や気になった言葉を

実際に質問の答かどうかは判断せずに書き出してもらいます。DVDでもスピーチでも同じように、これが答えだというものだけでなく、耳や目に留まった言葉をどんどんポストイットに書き出してください。

1枚のポストイットへは、1キーワードもしくは1文までとして、たくさんのポストイットを書き出してもらうことが、このあとのポストイットでつくる言葉の森での混沌がより起きやすくなります。でも場をつくる側の方は、何枚以上書いてくださいとかノルマを押し付けるよりは、たくさん書き出してみてくださいといった風に、楽しみながら行ってもらえる提案の方がいいです。

そのあとはキーワードのアウトプットですが、人数が多い場合は2人一組で SPEAK & LISTEN (片側が話し手、片側が聴き手として、指定された時間内話し手は話し続け、時間が来れば役割を交代する) をし、3~4人の場合は、全員で順番に話を聴くのもそのあとのダイアログにつながっていくのでオススメです。ですが、3~4人よりは2人の方が話しやすいので、そこは参加者の状況を見て判断してください。

ここでの時間は、このあとのダイアログでもっと話したくなるように、短めでひとり1分ほどで終わってください。私がよくやるのが、1番気になっているポストイットを選んでもらって、その話からしてもらうことが多いです。”こんな質問を考えて... “とか話していると、その説明でほぼ時間が終わっちゃうことが多いのです。あくまでこれも提案なので、参加者それぞれに決めてもらってください。

この時間だけでなくこの WORD JUNGLE の場自体でお願いしていることですが、本に書いてあったことを正しく伝えるのではなく、自分が感じたことを自由にしゃべることをしていただいています。はじめは難しい方もおられるかもしれませんが、少しずつでもそんな風になれるように。ちなみに本の説明になることも OK です。

このあとはフリーでダイアログをする時間です。とはいってもいきなりだと何から話そうかということになることが多いので、まずはテーブルの上に並ぶすべてのポストイットから気になるものを3枚選んでそれを切り口としてダイアログをはじめます。他の人のポストイットでも、もしくは頭にある言葉を新しく書き出してもらっても構いません。

私はよく”この場に正解・不正解はありません“と声かけします。これは勝手な自分の想いですが、間違いがない場には正解もないのです。逆に言うと、正解のある場には、必ず間違いが存在します。正しさをつくって場を支配するのではなく、参加者の数だけ存在する価値観などをお互いで受けとめ合う、そんな感じで場をつくることを行っています。

このフリーでダイアログする時間は、特に時間制限なくまずはひとりずつ順番に話をしていきます。場づくりをする人は最初に3枚のポストイットからの話をし、何を話しても拍手される環境をつくってください。そして次の方を指名したり、立候補してもらったりして話をしてもらいます。

場づくりをする人は、最初の頃は率先して話したり、ポストイットに書いては貼ったりと、参加者が流れをつかむまで意識的に場に関わってください。実際に誰かが話した中で気になる言葉をポストイットに書いて、テーブルの真ん中に貼付けて。

話が一巡したら、手元にあるポストイットで手放していいものをテーブルの真ん中の方に重ねて、言葉の森をつくっていきます。ダイアログを続ければここにどんどんポストイットが増えてきて、視覚的に混沌が生まれていることが認識されるのです。なので、参加者のみなさんと一緒に、頭に浮かんだ言葉をどんどんポストイットに書き出してもらって、目の前に大きな言葉の森をつくってみてください。

ダイアログが盛り上がり、自由に自分の話をしてもいいんだという雰囲気がある場に根付いた頃、思考の枠を外すためのゲームをひとつ行ってください。よくやっているのが、今の気持ちをポストイットに書いてもらって、その紙を折り中を見えないようにして、くじ引きのように引いてもらいます。すると自分の漢字ではないもの、もしくは自分の漢字を手にするのですが、”それがもし〇〇を表すとしたら、どんな意味がですか？” “投げかけます。

〇〇には、STEP1 で共有したこの場を通した大きな問い、WORLD PEACE 読書会であれば、”WORLD PEACE”がそれに当たります。それを場づくりをする人が最初、実際に話して、そして話終えた時に拍手を促しながら、何を話しても必ず拍手される状況をつくってください。そのあとは思いついた方から順番にこじつけた意味をシェアしてもらいます。これはカードを引くとかでも大丈夫です。ポイントとしては、関係ないと思っているものの意味をつなげる体験をしてもらうことです。

そのあとはまた時間の限り、ダイアログを続けてもらうのですが、だんだん言葉数が少なくなってきたら、発言が少なくなってくれば、それはSTEP3 に向かうためのわかりやすいタイミングです。ここまででしっかりと発散し、混沌が起きていれば話しきった感覚と平行して内省が始まることが多いので。

ここまででSTEP2 は終了です。しっかりと混沌が起こして、でも自然と自分の持っている”問い”に向けて収束し始める、そこからSTEP3 のふり返しへとつながっていきます。

それに加えて、WORLD PEACE 読書会の場合、前の読書会から”今の私にとっての WORLD PEACE ”を言葉にした手紙が届きます。参加者それぞれに封筒を選んでもらい、それを開けて読んでもらうのですが、それしかないよねという1枚を引くことが多くて。この理由は解明できていませんが、この瞬間がとても気持ちよかったです。

色々なことを人のせいにしていきってきた私が言うのも、いや私だから言えるのかもしれませんが、場づくりのひとつの想いとして、参加者それぞれがどうやって主体的に場に関わるか、そんな環境をつくることを心がけています。私が場をつくりたい目的のひとつに”行動”があり、継続的なには主体性が求められます。

場づくりをする人としても、頼られた方が気分いいし、持ち上げられるとうれしいし。でもその関係性は上下や依存を生み出しやすいので、私はニュートラルな状態で対等な関係性を築きたいです。とはいっても認められたい自分も自分の中にしっかりと存在しているので、内面とのバランスをとりながらですが。

思考停止を解除させること、旅をしている中で感じた、自分がやりたいことのひとつです。今の社会環境では考えないようになるためのポイントがたくさん存在しているので、自然と思考停止しきやすい環境にあります。

とはいえ、無理矢理思考させようとしても人には自己防衛本能があって、今、気づくと大変なことになるものは、無意識に気づかないようになっているので、無理矢理思考させることよりも、STEP1での問いづくりを信頼して混沌を広げ、STEP3のふり返りにつなげることが大切だと思っています。

私がつくりたいのは、気づかなければならない状態ではなく、気づける環境です。気づきなさいと押し付けられるのではなく、そこにいて、自然と気づける環境、それらをアジアにつくっていきたいです。それを自分の子孫たちに残したいのです。

その中で場づくり役の人が促すのは”怖れ”ではなく場に関わるすべての人それぞれが持つ”本来の姿”。言い方を変えると、“足りない“ものに目を向けるのではなく、才能や想い、経験など、人の“ある”もの、持っているものに目をむけると、それが場づくりをする人に一番必要な要素であり、だからこど促せるものがある、そんな風に思っています。